

I. 実践

1. 実践テーマ

教育活動全体を通して、『笑顔』いっぱい、『本気』で取り組む『凜』とした多賀中生」の育成

2. 実践内容

(1) あいさつ運動

生活委員会が主催し、毎月第1・第3月曜日の登校の時間帯に、各学級当番制で学年ごとに、正門・裏門・昇降口前に並び実施した。この活動は、PTAの方々も参加し、年間を通して実施している。また、11月1日には、「さわやかマナーアップ運動」として、学区の小学校、多賀高校と連携して実施した。本校の生徒だけでなく、地域の方々にも「おはようございます」と爽やかな笑顔で元気よく挨拶をした。元気な挨拶で、良い人間関係を築いていく基盤が作れるよう、今後も実施していく。



(2) 特別支援学校との交流

第1学年の生徒が、12月に特別支援学校の生徒と本校体育館にて交流を行った。事前に各クラスで相手のことを考え、どんな遊びが良いか計画、準備をした。当日は、モグラたたきやストラックアウト、絵合わせゲームなどクラスごとにいくつかのブースを設置した。分かりやすいように工夫して遊び方の手本を見せ、一緒に交流を楽しむ生徒の姿が見られ、思いやりの気持ちをもって自主的に活動することの大切さを学ぶことができた。



(3) 人権コーナーの設置と校内研修の充実

生徒が、豊かな人権感覚を身に付け、人権尊重の思想を高揚させていくことを目的とし、校内の人権コーナーをリニューアルした。二つの校舎を繋ぐ渡り廊下に設置し、生徒が校舎を行き来する際に目につくようにした。一人一人に個性があり、その個性をお互いに尊重し合うことで、差別や偏見のない社会が作り上げられていくことを理解できるようにしたい。

また、教職員自らが人権に関する理解と認識を深め、指導力の向上を図るための校内研修を夏季休業中に実施した。本年度は、グループワークを通して、人権について理解を深めるとともに、日常における実践について情報を共有した。共通理解を図り、人権意識をより一層高めることができた。

(4) Swing the bat 賞(校長賞)の授与

本校では、「清掃に熱心に取り組んだ」「進んで学級のために働いた」「元気な挨拶をしている」など、何かにチャレンジし行動するなど、学校生活の中で他の模範となって生活している生徒を一月に1度、各クラスから1名程度推薦し、Swing the bat 賞を授与している。毎回異なる生徒が受賞し、学校長から表彰されることによって、自己肯定感の高まりに繋げている。



(5) ワールドキャラバンの実施

本校に外国人の方を講師として招き、生徒との交流の機会をつくり、自国の文化の理解を基盤として、他国の文化を理解・尊重し、広い視野でより良い世界の創造に貢献できる子どもの育成を目的として、実施した。講師の方に剣道や柔道、日本食などの日本の伝統文化を紹介するだけでなく、講師の方の出身国の文化について学ぶ活動を行った。生徒たちは、準備にあたり自国の文化を再認識するとともに、異国の文化を知ることによって、外国の文化への理解を深め、尊重する態度を育成することができた。



3. 成果

毎日の生活や授業の中で、生徒同士がお互いに認め合い、助け合う姿をよく見かける。常時実施しているあいさつ運動により、元気な挨拶をする習慣を身に付けるだけでなく、地域の方々とも交流を深め、よりよい関係築くことができた。また、障害のある人や外国人との交流を通して、外国人障害者差別意識や偏見をもたずに相手を尊重する態度を育成することができた。一人一人が自他を尊重できた成果は、生徒の笑顔と凛とした態度に表れていたと感じる。

さらに、校内研修を通して教員が自ら人権教育に関する指導力の向上を図り、日々の教育活動の中で進んで生かすことで、実践的態度を育成することができた。

II. 今後の課題

人権教育は、全ての教育活動の中で実践していくことが求められている。そのため、人権コーナーの工夫と、校内研修の充実を図ることが課題である。各学年で人権教室を開き、生徒が身近な人権問題について知り、人権について理解を深めることで、人権感覚や人権意識を育成していきたい。

III. 人権コーナーの設置の様子

